

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:41-45.

救急外来－救急病棟の協力体制の確立～看護師の不安軽減を目指して～

佐藤 希, 金 誠治, 高畠 郁代, 澁谷 哲也, 阿部 由希子

## 救急外来—救急病棟の協力体制の確立～看護師の不安軽減を目指して～

旭川医科大学病院 救命救急ナースステーション  
○佐藤希 金誠治 高島郁代 澁谷哲也 阿部由希子

【目的】 A病院救命救急センターでは、構造上、看護師を救急外来担当（以下外来）・病棟担当(以下病棟)の2チーム制を取っている。昨年度、チーム間の協力体制を構築したが円滑な協力体制には至っていない。そのため、各チームにアンケートを実施し円滑な協力体制について検討する。

【方法】 4段階アンケートを単純集計し自由記載は内容の共通性に従いカテゴリーへ集約した。

【倫理的配慮】 所属大学の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】 アンケート回収率は97% (n=34) であった。全体の看護師経験年数は平均9.0年、部署経験年数は3.7年、病棟のみの看護師経験年数：8.5年、部署経験年数：2.5年であった。病棟担当へのアンケート項目では「応援に行くことが不安だ」「何をしても良いかわからない」「物品の位置がわからない」「患者対応は難しい」「働けるようになりたい」の平均が3.0以上であった。自由記載から8つのカテゴリーが抽出された。

【考察】 病棟担当は部署経験年数が低く、外来での実践経験が少なく物品の位置を把握できず応援時に不安があると言える。また外来は重症で複雑だというイメージが強く、急な応援要請で不慣れた環境での看護実践は不安を増強させていると考える。《救急外来での流れ》《物品の位置》《処置の準備・介助》《外回り》で、外来は応援要請時に実践ニーズが高いが、病棟が不安を抱いていた。《記録》《救急外来の状況を確認する》には今後の連携強化の可能性が示唆された。また病棟担当は外来での流れをイメージができず、さらに不安を助長させていると言える。外来も多忙時に細かな説明ができないというジレンマを抱いているが病棟の外来実践に対し前向きな意見もあり、平時から共に実践することで不安の軽減し、円滑な教育体制構築への一助となると考える。

【結論】 アンケート結果から1.病棟担当は様々な要因に不安を抱いていることがわかった。2.外来担当から日中の外来見学や学習会が必要だという意見があった。

# 救急外来—救急病棟の 協力体制の確立 ～看護師の不安軽減を 目指して～

旭川医科大学病院

○佐藤希 金誠治 高島郁代 澁谷哲也 阿部由希子

## はじめに

- A病院救命救急センターでは、外来・病棟担当の2チーム制をとっている。
- 応援依頼時は多忙時であり、詳細な患者情報や処置や物品についての細かい説明ができない。
- 2016年に実施したアンケート結果から「自信がない」などの理由から部署内ローテーションは進まず、病棟担当に外来経験者は3名しかいない。
- そのアンケート結果を踏まえ、資料配布やオリエンテーション実施などの外来—病棟間の協力体制（以下協力体制）を構築し運用した。
- 協力体制構築後、応援に来る機会は増えたが不安や抵抗感は残っており、不慣れな環境で安全に看護実践ができる環境を整えることが必要である。

## 目的

- 救急外来と救急病棟の円滑な協力体制について検討する。

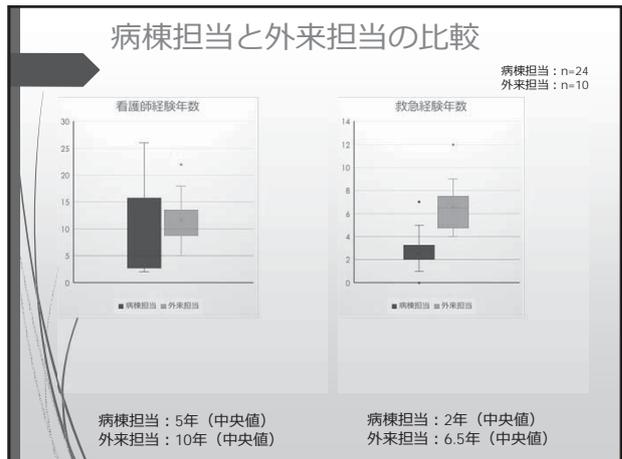
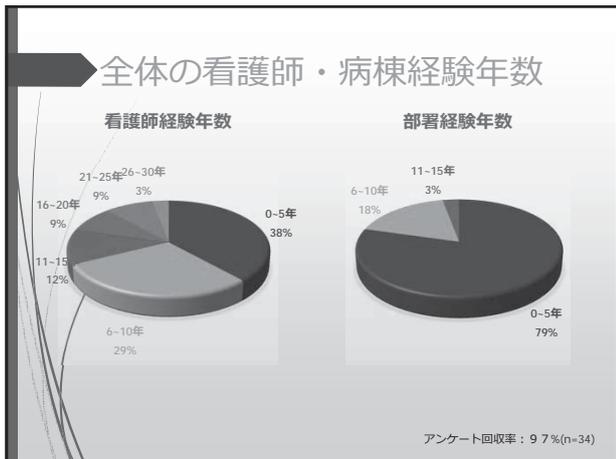
## 方法

- 研究デザイン：無記名自記式調査
- 分析方法
- 基礎情報、量的質問項目は単純集計する。自由記載に関しては記載内容の単位の共通性に従ってカテゴライズした。
- 病棟担当に対するアンケートでは、病棟担当看護師が困っていることを明確化し、外来担当に対するアンケートでは、救急外来応援要請時に依頼すべき内容を明確化する。さらにこれらのアンケート結果をもとにOJT計画を作成する。

## 倫理的配慮

- 本研究は所属施設の倫理委員会の承認を得て実施した。  
承認番号：17214

## 結果



### 病棟・外来担当アンケート用紙

#### 救急病棟担当者アンケート

- 救急外来の対応は本人が得意ですか。得意な人も困るのかもしれない。得意な人が少ない。得意な人がほとんどいない。得意な人がほとんどいない。

#### 救急外来担当者アンケート

- 救急外来の対応は本人が得意ですか。得意な人も困るのかもしれない。得意な人が少ない。得意な人がほとんどいない。得意な人がほとんどいない。

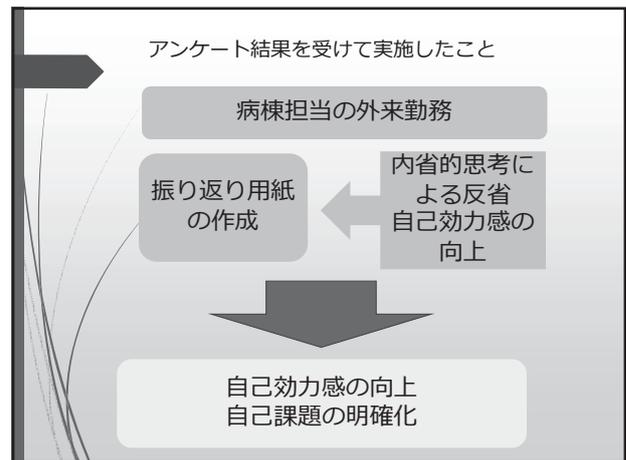
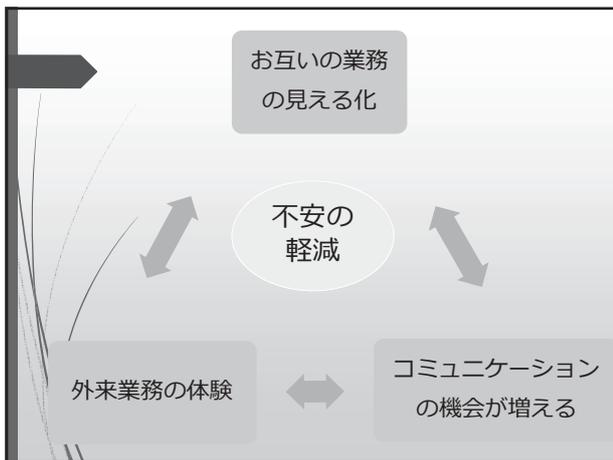
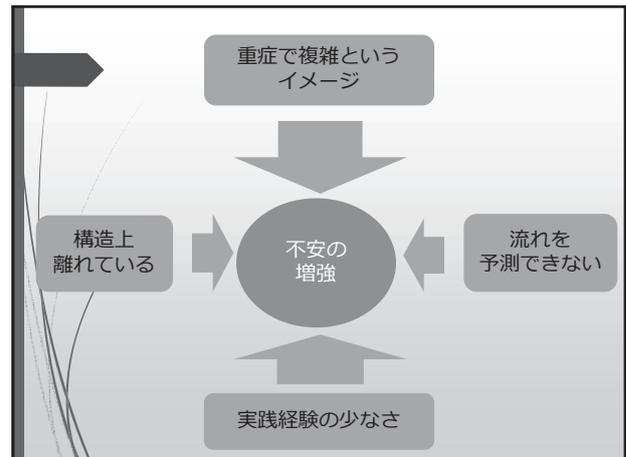


### アンケートの自由記載

カテゴリー	サブカテゴリー
救急外来での実践について	救急外来での流れがわからず、準備ができない
	患者を受け持つ
	患者情報をくれた
	具体的な指示をくれた
	何を手伝って良いかわからず、その場に立ち尽くしている患者と二人になった時に何が起きたら困る
	患者情報がないと何もできない
物品の位置に関すること	物品の位置がわからない
	物品の場所がわからない
処置の準備・介助について	物品の位置まで教えてくれた
	不確実なまま実践し不安があった
	未経験のため依頼を断られる
	自分でやったほうが早い きたスタッフのレベルによって依頼できないものがある

カテゴリー	サブカテゴリー
教育に関すること	資料による自己学習
	その都度聞く
	丁寧に教えてくれた
	自由に見学させてくれた
記録に関すること	多忙時には教育ができない
	ICに同席したことなど簡単な記録ができると良い
直接介助以外に関すること	記録ができない
	オペ出し・検査への護送
救急外来の状況を確認すること	専門外来での介助・付き添い
	環境整備
	入院関連
外来スタッフから感謝された	救急外来の状況確認して、応援が必要か確認する

## 考察



## 結論

- アンケート結果より病棟スタッフは何して良いかわからない、物品の位置、実践に関して不安を抱いていた。
- 自由記載より病棟スタッフは高度な実践をイメージし不安を抱き、外来スタッフは高度な実践ではなく、基本的な看護技術の実践を希望するというギャップがあった。
- アンケート結果より救急外来で実践するOJTを計画し、振り返りシートを作成した。

## 今後の課題

- 今後も業務の見える化を実施し、病棟スタッフの不安を軽減して行く必要がある。
- 継続的・計画的な教育プログラムの作成が必要である。
- その効果を高めるため、OJTとOff-JTを組み合わせたスパイラル学習を組み込む必要がある。

医師からの最初の情報				
	準備		実践	
	病棟スタッフが考えたこと	外来スタッフが考えたこと	実際の状態	実施したこと
A 気道				
B 呼吸				
C 循環				
D 意識				
家族対応について				